

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たすきっずしおみ			
○保護者評価実施期間	2026年7月2日 ～ 2026年7月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41名	(回答者数)	21名
○従業者評価実施期間	2026年7月2日 ～ 2026年7月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年8月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	将来の選択肢を広げる支援内容や療育の実施	・毎月プログラムカレンダーを作成し、毎日違った内容の取組を行なっております。流行している内容や多種多様な体験や経験をを通して、机上ではない学びを行なっている。社会資源を活用しながら「可能性の第一歩」を踏み出す支援を行なっている。今年度は近隣にある福祉プラザ祭りへ参加しカフェブースにて職業体験の場を頂くなど地域の方々との交流を図っている。	今回の職業体験では実際に地域の方々もお祭りに足を運んでいただいた為、多くの交流を持つことができたが「福祉施設が主催するお祭り」への参加を通してだったため、ある程度の関心が既にある方々だったように感じる。今後は、普段「障がいのある児童」と関りの少ない地域の方々との交流を広げていけるようにさらなる社会資源の活用を目指す。
2	日々の活動に「ねらい」を定め、支援提供	・日々の活動に対して日案を作成しております。日案の中にプログラム内容に対する【ねらい】を記入しており、《常勤職員・非常勤職員》共に内容を確認しております。【ねらい】を見える化することで、職員間で共通の認識を持ちながら支援を行なう事が出来ております。	・書式の整備やより職員間で共有しやすい形にバージョンアップすることで、より意思伝達の正確性を上げていく。 ・分からない事がある際は、その場で質問するように伝達していく
3	ご利用者の方やご家族のご理解やご協力を頂けている関係性 又、各職員の支援に対する熱き思考	・弊社の考え方に理解やご協力頂ける方に巡り合えたことが全てになりますが、コレも1つの【縁】だと思います。引き続き、情報共有させて頂きながら、「将来につながるチャレンジの場」として利用して頂けたらと思います。 ・職員の研修会を通して、理念伝達を都度行なっており、職員自身もお子様の将来を本気で考え支援しています。	・常に変化が求められる時代になってまいりました。今の常識から新常識へ変わる際は、丁寧な説明をさせていただきながら、時代に合った事業所になれるように変化に対し柔軟に対応を行い、精進していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応周知	・防災等各種マニュアルは整備済みではあるが、共有のあり方が不透明な部分が多くまた日々の支援の際のルール化や緊急時の対応についても改めて確認が必要。	「緊急時の対応」等、共有の在り方が不十分だったものは改めて手順書の作成や見直しを行い職員へ周知していく。
2	父母会の発足や保護者会の開催	・ご家族の参加型のイベント（兄弟姉妹を含む）の実施は行なっているが、父母会自体の発足はしていない。父母会の発足が難しい理由として、共働き世帯の方もいらっしゃる為、難しいだろうと一方的に考えてしまっていた点があげられる。ご家族参加型のイベントの際に、保護者間で交流できるような取組だけでなく、新たな形の模索が必要	・父母会についてのアンケート調査を行いながら、状況に応じた父母会のあり方を検討していく。 ・保護者会については、開催出来るように調整いたします。
3	地域の他の子どもとの活動	・施設内のみで過ごしてはならず、外出活動先の地域の中で自然と交流はしているものの、地域の他の子どもと一緒に活動することを重視した取組は行えていない	・引き続き、外出活動先での自然な関りは元より、地域への理解促進を促していく必要があると思われる。 ・児童館等での取組を行うなど、地域の社会資源へ連絡を行ない、新たな取組を計画実行に移していきたいと思っています。